

## 小児医療がピンチです！

新型コロナウイルス流行で今までの日常が失われてきています。医療においては、ICU（集中治療室）での重症者の管理が目いっぱい医療崩壊寸前とマスコミに流れています。

しかし、その裏では病院外来や一般診療所での患者数が激減しており、このままでは病・診療所の経営が困難になると懸念されています。

特に小児科は、子どもたちの感染症（発熱、咳、鼻水、嘔吐・下痢など）を中心に診療していますが、昨年と同時期に比較して患者数が半減しています。

「日本小児科医会の実態調査」では、ほとんどの診療所で患者数が30%～60%減少しています。コロナに感染するのを恐れて来院を控えていることと、マスク、手洗い、アルコール消毒などの感染予防対策が奏功しているからだと思います。

経営危機に瀕している小児科診療所ですが、このままでは身近な小児科医が消えてしまいそうです。私の周りでも那覇で開業していた小児科が2か所、糸満で1か所が閉院しました。

街から小児科が減ってしまうと小児救急、園医・学校医、乳児健診など地域の子どもたちへの医療保健行政も回らなくなると懸念されています。事態は深刻なのです。

「仕事消滅時代の始まり」と本田健氏は言っています。観光・宿泊、外食、百貨店などは厳しくなりました。そして銀行業も前年同期と比べて40～50%の減益です。理由としては、融

資先の企業の業績悪化、不良債権処理の費用です。企業の倒産が増えれば、銀行の倒産もあり得ます。

これからの時代はインターネットで売買する企業、医療用器具、製薬・臨床試験、ドラッグストア・薬局、スーパー・コンビニが生き残れるだろうと指摘されています。

「会社にしがみつくことで、安定を得る時代は終わりました。頼るべきは、社会でも会社でもありません。あなた自身です。あなた自身に頼るとは、自分の才能で勝負する生き方を選ぶことでもあります。」の言葉に共鳴しました。

その分野で成功している人、あなたが素敵だと思えるような人を研究して、誰にもできないあなただけの仕事を作ること。

そして、才能をお金に換えるための6つの視点とは、

- ① 誰かに感謝されること
- ② 「こんな商品があればいいのに」と思うこと
- ③ 「お金を払うからやって欲しい」と頼まれること
- ④ 大好きで探求心に事欠かないこと
- ⑤ 経験豊富で熟知していること
- ⑥ たくさんお金を使ってきたこと  
(本田 健氏の著書を引用しました。)

病・診療所も将来の在り方を模索しなければならぬ時代になりました。

(院長)